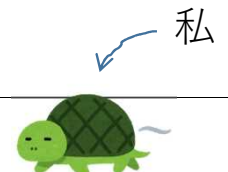
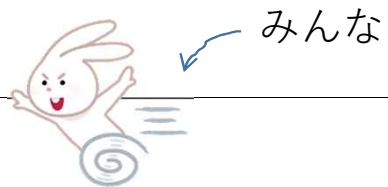


TCパワトレ性能開発部第2パワトレ開発室 市橋 陽子



業務内容	トランスミッションの制御仕様・適合開発部署で仕様書発行やその他諸々のサポート業務
志望動機	スキルアップしたい！ 自部署でソフトを読んだり書いたりできたらもっと業務の幅が広がる！
Before	プログラミングというものを全く知らない、 Excelの関数だけで仕事していたプログラミング超超初心者。 (募集要項通り！)
After	配列・オブジェクト辺りから怪しくなってるけど、なんとかついていってる 気になっている初心者。じっくり時間かけてもっと学びたい！
今後 やってみたいこと	皆さんみたいにアプリが作れるようになりたい！



9日目 基礎演習

3.“art” というモールス信号を表示するために、関数 `morseCodeArt` を宣言してください。

```
/**
 * @param {string} string - モールス信号に変換する文字
 * @returns {string} 与えられた文字に対応するモールス信号
 */
```

```
const morseCode = { t: “-”, a: “.-”, r: “.-.”, }
```



<パターン1：空の文字列に代入演算子を使って入れていく方法>

<pre>function morseCodeArt(string) { let result = ""; for (const str of string) { result += morseCode[str] + " "; } result = result.trimEnd(); return result; }</pre>	<p>: 引数(string) 1個の <code>morseCodeArt</code>の関数を宣言</p> <p>: 空の文字列を準備</p> <p>: 文字列を1文字ずつにばらしてループ</p> <p>: 空の文字列に代入演算子でモールス信号とスペースを追加</p> <p>: 最後のスペースを切り取る</p> <p>: 結果を返す</p>
---	---



<パターン2：空の配列に.pushを使って入れていく方法>

function morseCodeArt(string) {	: 引数「string」1個の morseCodeArtの関数を宣言
const returnArray = [];	: 空の配列を準備
for (const str of string) {	: 文字列を1文字ずつにばらしてループ
returnArray.push(morseCode[str]);	: .pushを使って空の配列にモールス信号を追加
}	
return returnArray.join(" ");	: 結果を返し、.joinで間にスペースを入れる
}	



<パターン3：.split .mapメソッドを使って書いた場合>

function morseCodeArt(string) {	: 引数「string」1個の morseCodeArtの関数を宣言
let result = "";	: 空の文字列を準備
let splitString = string.split("");	: .splitを使って文字列を1文字ずつにばらす
splitString.map(function (str) {	: .mapを使って↓ループ
if (result === "") {	: 最初の1文字目だったら
result += morseCode[str]	: スペースなしのモールス信号を追加
} else {	
result += " " + morseCode[str];	: 2文字以降はスペースありのモールス信号を追加
}	
});	
return result;	: 結果を返す
}	

